

今週のみことば

## 「信仰の弱い人を受け入れなさい」

(出エジプト記23章10節～13節)

「六年間は、地に種を蒔き、収穫をしなければならない。」(23:10)

(ローマ人への手紙14章1節～9節)

「あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。」(14:1)

### 今日のメッセージ要旨

◎私たちは日ごとの生活において自分の弱さに直面することがあります。しかし、他の人の前では強がりと言ってしまい、弱さを覚えている人に行き届かないことがあります。み言葉を通して私たちのあるべき姿を教えられていきたい。

◎出エジプト記23章10節以下は「7年目の規定」です。「7年目の奴隷解放」(21:2-11)に続き、ここでは7年目の土地の休みについて命じられています。土地の休みは、当然その地で働く労働者の休みにつながります。安息年は単純労働者のためであったのです(12)。休耕地に出来る産物は、貧しい者と獣の食料となるのです(11)。これまで述べてきたことに「心を留め」るように命じられています。どの戒めも大切であり、それぞれを心に留めなければならない。しかしその中で大切なのは主なる神に対する忠誠なのです。主なる神以外の名を口にしてはならないのです。

◎ローマ人への手紙14章の主題は「信仰者相互の対人関係」で、キリスト者同志で意見の異なる問題に対する正しい態度について論じられているのです。パウロは訪れたことのないローマ教会に対して、起こるであろう具体的な問題、特に人間関係を取り上げております。これはすべての教会において起こりうる問題なのです。この14章では信仰の強弱の問題が取り扱われております(今までは信仰の有無の問題が問われていた)。「あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見を裁いてはいけません。」(1)とあり、更に「私たち力のある者は、力のない人たちの弱さを担うべきです。自分を喜ばせるべきではありません。」(15:1)とあります。コリント人への手紙第一8章にも取り上げられております。

◎信仰の「弱い人」と「強い人」の違いは分かるのでしょうか。一口に言えば、これまでの生き方や社会通念に拘っている人とそこから解放されて自由に振舞っている人と言えるのではないのでしょうか。特にこの箇所では「食べ物の問題」(2)及び「日の問題」(5)が取り上げられています。当時市場で売られていた肉は、偶像に捧げられたもののお下がりであることが多かったという。肉を食べず野菜だけ食する者もいた。パウロはこのような人を「信仰の弱い人」と呼んだ(1～2)。

一方、偶像などもともと存在しないのだから、気にしないで肉を食べる者もいた。パウロは、「食べる人は食べない人を見下してはいけないし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません」(3)。どちらも「主のために」行っていることであり、「神がその人を受け入れてくださっている」からなのです。しかし行い方、守り方に違いがあるのですが、人は他の人のしていることが気に掛かり、つい「裁きたくなる」のです。私たちは自分を喜ばせることを求めるより、他の人を喜ばせることを求め、特に「主イエス様」が何を求め、願っておられるのか、を聞き続けて歩みたいものです。食べる人も食べない人も日を守る人も守れない人も、「確信を持ち」、「主のために」行い、いつも「神に感謝をささげる」歩みをさせて頂きたい。私たちは「主のために生き、主のために死ぬ」身なのです。

互いの考えや生き方を認め合うのは健全な人間関係の基本なのです。自分の考えに「確信をもって」、他者に敬意を持ち、配慮する者でありたい(21～15:1)。